

1 これまでの取組に対する意見

取組内容

主なご意見

- | | |
|-----------------------------------|--|
| 個別施設計画策定
(令和3年2月策定) | <ul style="list-style-type: none">▶ 個別施設計画を進めるには、その考え方を理解いただけるよう個々に丁寧な説明が必要である。▶ 地域への説明は(廃止ありきではなく)代替え案を示しつつ、相談しながら進めてもらいたい。(2Pの①)▶ 説明の際は、集約化などの対策後のイメージ(将来像)を分かり易く、具体的に明示できるとよい。(2Pの③)▶ (個別施設計画の期間の10年ではなく)20年、30年先の将来像を目標に見据え、施設を整理していくということも大事である。(2Pの③) |
| 公共施設等総合管理計画の改訂
(令和4年2月策定) | <ul style="list-style-type: none">▶ 計画を改訂する際は、長野市の将来のためにどうするのかを基本に考えていく必要がある。▶ 延床面積を20%縮減するという目標だが、本来見直す必要があるものは市の財政である。(2Pの②)▶ 施設の機能の変化や地域コミュニティ施設等、もっと幅広い視点で捉えて公共施設の適正化を考えるべきである。 |
| 国スポ・全障スポの施設整備に向けた提言
(令和4年3月提言) | <ul style="list-style-type: none">▶ 公共施設マネジメントは財政負担についてだけではなく、市民の方に建物を効果的・効率的に利用していく観点も必要であり、整備後の有効活用が重要となる。(2Pの①、③) |

2 現在の取組及び今後の方向

①具体的な代替案を示し、施設の効果的・効率的な利用促進

- 施設の性質、機能による分類
- 関係所属による調整会議の設置

資料 2 - 1 ~ 3

②公共施設マネジメントの本来の趣旨である財政負担の軽減につながる取組

- 利用者負担の見直し（無料施設の有料化など）

資料 2 - 4

③市の将来を見据え、再編後のイメージを具体的に明示

- グループごとに20、30年後の配置イメージを作成

【参考】 市民との意見交換会(概要)

個別施設計画に基づき勤労者福祉施設の再編を進めている中、体育館利用に関する市民との意見交換会に係る3部局で参加し、体育館をはじめとする市有施設のマネジメントに対する市の考え方について説明しました。

1 日にち 令和4年5月16日(月)

2 参加者 勤労青少年ホームの利用者、総務部、文化スポーツ振興部、商工観光部

市の考え方

- ◆ 市が保有するストック全体でどういう使い方をしたら良いかの議論が必要と考える。
- ◆ 部局毎に目的を持って体育施設を整備している経過があり、部局間で施設の情報共有ができていない。部局だけで考えるのではなく、体育館関係部局が集まって調整会議といった形で、全体調整・連携を図る必要がある。

参加者の思いや考え

- ◆ 利用者が多く、生きがいにつながっている北部勤労青少年ホーム体育館の廃止は理解できない。廃止を決める前に市民(利用者)との対話が必要。残すという検討の余地はないか。
- ◆ 色々な種類の体育館があり、市内にどれだけ市民利用できる体育館があるか分からない。またその利用方法もよく分からない。

【参考】 市民との意見交換会(参加者の主な個別意見)

- ・施設の整備の優先順位として、学校体育館>社会体育館であることは理解できる。
- ・廃止までの時間的な猶予がない。
- ・コスト縮減の観点で考えると、利用者負担の議論があっても良かった。
- ・利用が多いのにもかかわらず長野市は他の中核市と比べて施設が多いから減らすという理由は理解できない。廃止を決める前にどうしたら良いか議論があった方が良かった。
- ・中部勤労青少年ホーム体育館の廃止方針について見直す余地があるならば検討してほしい。
- ・アンケートで、社会体育館を充実してほしいとの声が1番高い。この状況で減らすということはニーズに合っていない。
- ・体育館は市の財産として考えられないのか。恵まれていることを知らない人が多い。もったいない。市外の人がうらやましがられる環境にあることをもっと知ってもらい、呼び水になるような使い方を検討してほしい。また部局間の連携を考えてほしい。
- ・利用者目線で考えてほしい。
- ・体育館の廃止は面積2割削減の考えありきで進んできてしまっている。
- ・高齢者世代にとって、健康維持・生涯スポーツにつながるものであり、市長の健幸増進都市にそぐわない。利用料収入を増やすなどの方法で、できるだけ減らさないで考えてほしい。